

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271101351		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか		
所在地	沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	平成29年11月16日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

職員と家族、利用者様との距離が近く、不安のないいつでも相談が出来る。そして明るく、楽しく職員が働いています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2271101351-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JgyosyoCd=2271101351-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者のペースを大切に生活を目指し、職員が利用者の様子をしっかりと観察し職員同士で情報を共有し連携した介護にあたっているため利用者が穏やかに暮らしている。また、職員は自分の考えをしっかりと持ち、会議でも意見が出ている。地域との連携を深めようと地区の防災訓練や祭り、清掃に参加し、地域包括支援センターのイベントにはボランティアとして参加している。最近、地域の団地の独居老人を対象にした「認知症について」の講演依頼を受け、実施した所、地域の社会福祉協議会との繋がりができ、関係を深めている。利用者の外出には家族が積極的に協力してくれているため、馴染みの場所や行きたい所に出かけられて満足している。
--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 12月 1日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で利用者様のペースでゆったりとしたスローライフを送ってもらう為、日々声かけや空気を大事にしています。	入社オリエンテーションが本社で行われ、企業理念を学んでいる。昨年、スタンダードブックが作られ、全職員に配布された。しっかり理解するように実践している。	スタンダードブックの読み込みと理解をする為に普段からスタンダードブックを開いてみる機会を作ります。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている防災訓練、お祭り等へ職員だけでなく利用者もお連れして交流をとっています。	地域の祭りでは、海鮮焼きの店をまかせ、職員が参加し販売をしている。地域の清掃にも職員が参加している。学生の実習を受け入れ利用者と交流を図っている。近くの幼稚園生が1月訪問が決まり、準備をしている。	定期的な決まって地域の方と交流が持てるようなカリキュラムが組めるように交流を図っていきます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われている地域包括支援センター主催の会合や勉強会に参加させて頂き、ボランティアとしても登録させて頂いています。年に一度は認知症について講演させて頂いています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の参加で、ご家族の意見もよく聞くことができています。利用者様へより良いケアが出来るよう心掛けています。	利用者、家族、自治会長、相談員、地域包括と市の職員が参加し、定期的開催している。利用者の状況や活動報告を行い、地域の情報を収集したり、意見をサービス向上に活かしている。議事録を作成し、ネットに公開している。	ご家族や自治会長様だけでなく、近隣住民の方、防災関係の方など誘って参加してもらえるようになりたいです。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者よりメールで勉強会の案内や周知してもらいたい連絡事項等教えてくれるので助かっています。運営推進会議にも来て頂いています。	市より、研修のメールが届く。グループホーム連絡会は2ヶ月に一度開催され、管理者が参加し情報交換の場となっている。地域包括支援センターとは密に連絡をとり、講師を依頼され、社会福祉協議会とのつながりもできた。	社会福祉協議会の方とつながりができたので今後も関わっていききたい。地域の困っている事、楽しんでもらえる行事も積極的に把握して参加していききたいです。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はどんな理由があってもしないと全職員が理解しています。	徘徊を頻繁にする利用者がいた時も施錠せず、職員の声かけと対応で拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックの対応で職員に問題があるときは、管理者が個別に指導している。	これからも拘束になるような言動、行動をしないよう徹底し、対策も立てていきます。ご家族とも協力ができるようにしていきたいです。

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	慣れて介護が雑になっていないか、誤解を招くような言動がないかも注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会があれば参加し、理解を深めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ったとしても何度も契約について質問がないかご家族へ尋ね、理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の面会時、話すよう心掛け、ご家族の思いも受け取り、今後どうケアしていきたいのか、他者も含めて検討しています。	家族に伝えたい事がある時には、管理者が面会時に話をする。電話で報告や連絡をする時もある。 外出希望、病院の付き添い、レントナル料金等の相談があった。	管理者からまず利用者ご家族へ説明はするが、細かな事についてはスタッフから伝えて判断ができるように教育に努めたいです。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回各ユニットでユニット会議を開き、意見を出す場としても使っています。	ユニット会議で、管理者会議の内容を伝え、職員は感じたことや意見をよく出してくれる。また、管理者は職員と個別に話をする機会を設けている。シフトの変更、物品購入等、意見や提案が出て反映させている。	職員の意見を他の職員たちがどうとらえるのか、どうしたらいいケアにつながるのか常に会議では相談しています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個性を理解し、条件に合うよう勤務を組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士の相性、モチベーションが上がるようにして、介護技術も向上できるようにしています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム北部連絡協議会が2か月に一度あり他の管理者、ケアマネと交流、相談ができています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が何に困っているのかを把握し、どうしたら安心した生活が送れるのかコミュニケーションをたくさんとるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は何で入居してもらいたいのか、何が困っているのか、話をよく聞くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今後のグループホームでの生活がどうなっていくのかも含めて話を進めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されている立場としてではなく一緒に行動を共にし、「ありがとうございます」の気持ちを大切に関わっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、電話でのやり取りの際ご家族の話に耳を傾け、共に利用者様をケアしていける関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域包括支援センターの方や近くに住んでいた方の面会もあり、ご本人様は覚えていなくとも続けています。	地域包括支援センターの職員が利用者の近所の人を面会に連れて来てくれ、関係の継続ができた。孫をつれての家族の訪問は、利用者全員が大変喜んでいる。馴染みの店や自宅には家族の協力で出かけている。	ご家族の協力もあり、これからも外出の支援の手伝いや買い物、近所に住んでいた方の訪問も喜んで迎えています。

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いグループホームの住人として何かあれば手伝ったり、世話をやいたり、関係は良く、話をよくしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても電話連絡等でその後の利用者様の様子や相談を聞いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様と話す時間を作って、ゆったりとした空気の中話すようにしています。希望があれば会議でも検討します。	職員は利用者をよく観察していて、声かけをし、表情を見て何を希望しているのか推測して対応している。利用者間でトラブルになりそうな場合は利用者の間に入り、落ち着かせている。	ご本人の本意は何か声かけの中からも情報収集して、意向の把握に努めていきます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントでも注意深くご家族やご本人の話の中から聞き取るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族によっても過ごし方は違う為、わからない時は何度も聞くようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原案の作成、モニタリング、作ったケアプランを主治医に見てもらう事もあります。	利用者のケアプランの変更がある時は、前から家族と連絡を取り、意見を聞いて、訪問看護師や医師に相談して作成している。モニタリングはユニット職員全員で行っていて、記録をし、介護計画に反映している。	職員一人一人の意見やモニタリングを大事にしてユニット会議だけでなく、申し送り時にも相談出来るようにしていきます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの気づきや上手にできたケア等、今後に生かせる情報を共有できています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他グループホームの情報や、変化する家族の状況によって、支援の仕方も話し合い、その都度申し送りをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外に公園があり、散歩していると近所の方とも交流ができ楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の思いを大切に手伝いが出るところは支援をして、かかりつけ医とも連携しています。	往診の医師は2人いて、2週間に一度薬剤師を伴って訪問してもらっている。体調不良の時には協力医療機関に職員が連れていき、すぐに対応してくれる関係を築いている。歯科の協力医もいて、月に1回往診してもらっていて、希望者には口腔ケアを行ってもらっている。	まず一人一人に細かいところまで目を向け、細かい事まで相談出来るよう関係性を保っていきます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を職員間で申し送りし、訪問看護師に相談、助言、指導をもらえるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院受診の際、病院内の地域連携室の方と話をするようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化によってはその都度、今後看取りをしていくのかご家族、主治医とも話し合っています。	入居時に同意書を取り、重度化した場合に医師から状況を説明してもらい、家族の希望を聞き対応している。重度化の時に夜勤者は、1・2階で協力している。看取りの資料があり、研修の代わりに各自呼んでもらうようにしている。経過観察シートには細かく記録をとっている。	看取りに関しても普段のケアについても支援のし過ぎはないと思っています。少しの事でもプランへ反映させたり、記録に残せるよう支援していきます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や事故対策の資料を配布し、知識はもっていただいています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災、水害の対策もしています。水害の際は慌てずマニュアル通り行動し、利用者様も自身も安全確保します。	年2回、あらゆる想定で訓練をしている。地域の防災訓練に参加し、一次避難場所まで利用者が避難し、その後の訓練に職員が参加している。事業所は地区の避難場所になっている。飲料水やおむつ類の備蓄は充分あるが、食品の備蓄が充分ではない。	夜勤の職員は研修を受けているが、夜間想定 of 訓練を経験していないため、早急に夜間想定 of 訓練の実施が望まれる。食品については購入予定であり、対応が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーには常に気を付け声かけをしています。	声かけの声のトーンや大きさは利用者が驚かないように配慮されている。着替えやおむつの交換の時には周りに配慮して言葉を選んで声かけをしている。気持ちが高ぶっている利用者には落ち着くまで、見守っている。	個人のプライバシーは認知症が絡んでくると繊細であります。敬う気持ちを忘れずに関わろう努めていきます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう声をかけるようにしてコミュニケーションをとっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活リズム以外は利用者様一人一人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が選んだ衣類が多いです。もしくはご本人様が前から使っていた馴染みのある洋服を着ています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは一緒に出来ていないが片付けやテーブル拭きは協力してもらっています。	食事前には毎回嚙下体操をしている。一汁三菜を心がけ、食物繊維が取れるように野菜を使う工夫をしている。肉、魚を選ぶ時には利用者の要望に答えている。今後、献立の栄養指導を会社でもらえる予定である。	テーブルを拭くだけでなく、ご飯作りにもう少し関わっていけるようになりたいです。盛り付けだけ手伝ってもらおうとか、方法を考え実行していきたいです。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態、習慣に合わせて対応し考えています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずケアするよう支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態、日によっても対応を変えています。排泄の自立に向け、トイレも行けるようなら行くよう支援しています。	おむつ使用の利用者にもトイレで座ってもらうようにしている。リハビリパンツやおむつ、パットを活用して自立に向け支援している。夜間の排泄は無理強いせず、睡眠を大切にしている。	排泄に関してはオムツに方でも極力自立して出来るようトイレに行く機会を設けていきます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションに参加してもらい運動もしっかりしてもらえるよう支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前入りしたい方、午後入りしたい方とそれぞれの希望にそってできるだけ入れるように心掛けています。	日にち、時間を決めないで入浴したい時に入ってもらっている。入浴剤の好きな利用者には入浴剤を使用してリラックスしてもらっている。一人ずつ、ゆったり時間をかけて入浴してもらい、会話を楽しんでいる。	これからも一人一人の入浴の時間を大事にして、喜んでもらえるよう努めていきます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週間で昼寝をしたり午前か午後少し横になりたい方は横になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	容量の間違いはないが、誤薬等の事故がないよう注意しながらケアしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字、縫物等、ご本人様がしたい時に提供しています。		



静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで散歩に行ったりご家族に協力してもらって外出したりしています。	体調の良い利用者には散歩をしてもらい、近隣の住民に挨拶や声かけをしている。馴染みの場所の外出は家族に協力してもらっている。介護度が高くなり、体調に配慮して散歩や外出が難しくなっているが、気分転換や五感刺激の機会として外出支援に取り組む努力が見られる。	暖かくなってきたらまた時間あれば散歩に行くような習慣作りをしていきます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人様に持たせて買い物をする機会はほとんどありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ手紙を出す機会はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を貼るように心掛けています。不快がある空間にはなっていません。	台所、和室が真ん中にあり、居室が囲むような造りになっているため、事業所内での歩行訓練が可能である。共用の空間は掃除が行き届いていて、整理整頓ができています。装飾がされ、日用品が置かれ、家庭的な雰囲気がある。	利用者様の五感を刺激出来るような季節感ある雰囲気作りを心掛けていきます。また、落ち着いて過ごせるような不快な音を立てたりはしません。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーに物を置き過ぎず、一人になる場所としても使えます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使っていたテレビ、タンス、ベッドをできるだけ持ってきてもらっています。	ベッド、家具の位置は家族、職員が相談して配置している。できるだけ、家に近い雰囲気になっている。花や家族の写真がきれいに飾られている。	出来るだけ馴染みのある家具を用意してもらい、落ち着いた空間を大事にしています。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手の届く所にハンドソープを置いたり、椅子が回らないよう固定したりして安全にも気を使っています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2271101351		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームほのか		
所在地	沼津市大岡905-6		
自己評価作成日	平成29年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JiyosyoCd=2271101351-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JiyosyoCd=2271101351-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 12月 1日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自分で出来る事は自分でやっております。出来るだけ自分でする事で利用者様の自立している部分をとらないよう心掛けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で利用者様のペースでゆったりとしたスローライフを送ってもらう為、日々声かけや空気を大事にしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている防災訓練、お祭り等へ職員だけでなく利用者もお連れして交流をとっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われている地域包括支援センター主催の会合や勉強会に参加させて頂き、ボランティアとしても登録させて頂いています。年に一度は認知症について講演させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の参加で、ご家族の意見もよく聞くことができています。利用者様へより良いケアが出来るよう心掛けています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者よりメールで勉強会の案内や周知してもらいたい連絡事項等教えてくれるので助かっています。運営推進会議にも来て頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はどんな理由があってもしないと全職員が理解しています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	慣れて介護が雑になっていないか、誤解を招くような言動がないかも注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会があれば参加し、理解を深めるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ったとしても何度も契約について質問がないかご家族へ尋ね、理解を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の面会時、話すよう心掛け、ご家族の思いも受け取り、今後どうケアしていきたいのか、他者も含めて検討しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回各ユニットでユニット会議を開き、意見を出す場としても使っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個性を理解し、条件に合うよう勤務を組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士の相性、モチベーションが上がるようにして、介護技術も向上できるようにしています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム北部連絡協議会が2か月に一度あり他の管理者、ケアマネと交流、相談ができています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が何に困っているのかを把握し、どうしたら安心した生活を送れるのかコミュニケーションをたくさんとるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族は何で入居してもらいたいのか、何が困っているのか、話をよく聞くよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今後のグループホームでの生活がどうなっていくのかも含めて話を進めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されている立場としてではなく一緒に行動を共にし、「ありがとうございます」の気持ちを大切に関わっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、電話でのやり取りの際ご家族の話に耳を傾け、共に利用者様をケアしていける関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域包括支援センターの方や近くに住んでいた方の面会もあり、ご本人様は覚えていなくとも続けています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いグループホームの住人として何かあれば手伝ったり、世話をやいたり、関係は良く、話をよくしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても電話連絡等でその後の利用者様の様子や相談を聞いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様と話す時間を作って、ゆったりとした空気の中話すようにしています。希望があれば会議でも検討します。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントでも注意深くご家族やご本人の話の中から聞き取るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族によっても過ごし方は違う為、わからない時は何度も聞くようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	原案の作成、モニタリング、作ったケアプランを主治医に見てもらう事もあります。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの気づきや上手にできたケア等、今後に生かせる情報を共有できています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他グループホームの情報や、変化する家族の状況によって、支援の仕方も話し合い、その都度申し送りをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外に公園があり、散歩していると近所の方とも交流ができ楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の思いを大切に手伝いが出るところは支援をして、かかりつけ医とも連携しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を職員間で申し送りし、訪問看護師に相談、助言、指導をもらえるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院受診の際、病院内の地域連携室の方と話をするようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態の変化によってはその都度、今後看取りをしていくのかご家族、主治医とも話し合っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や事故対策の資料を配布し、知識はもっていらっています。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災、水害の対策もしています。水害の際は慌てずマニュアル通り行動し、利用者様も自身も安全確保します。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーには常に気を付け声かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように普段からご自分で選んでいただけるような環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「あんた達がしたいようにしな」とほとんどの方がそう言うので、出来るだけ一人一人のペースを大切にするようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族が選んだ衣類が多いです。もしくはご本人様が前から使っていた馴染みのある洋服を着ています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きが日課になっている方が多いです。洗い物も少しだけの量だったらお願いする事もあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様それぞれの週間や病気に合わせた内容になるよう支援しています。		



静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずケアするよう支援しています。自室もしくはフロアーの洗面台で歯ブラシをしてもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	歩けることが困難な方はせめてつかまり立ちはできるよう継続して声をかけ支援していきます		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動で体を動かしてもらい予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるようご本人の好きなタイミングで入ってもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週間で昼寝をしたり午前か午後少し横になりたい方は横になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬内容の変更も理解していて間違いが今後もないように気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カルタ遊びや歌を歌ったりと時々楽しんでいきます。		

静岡県(グループホーム ほのか)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日でご家族が外出へ行ってくれたり、天気の良い日に散歩に出たりしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人様に持たせて買い物をする機会はほとんどありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ手紙を出す機会はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を貼るように心掛けています。不快がある空間にはなっていません。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーに物を置き過ぎず、一人になる場所としても使えます。2階はソファがあるのでソファに座ってくつろぐ方もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使っていたテレビ、ダンス、ベッドをできるだけ持ってきてもらっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手の届く所にハンドソープを置いたり、椅子が回らないよう固定したりして安全にも気を使っています。		